

体育授業における思考内容の変化

ー グループ活動の逐語記録による分析をもとに ー

学籍番号 219348

氏名 六車 光

主指導教員 井上功一

副指導教員 赤松喜久

1. はじめに

1. 研究背景と目的

2017年度告示小学校学習指導要領では、思考力・判断力・表現力の育成も求められている。体育科でも思考力・判断力・表現力の育成を目指して、タブレットで自分自身の動きを確認したり、見本動画を見たり作戦を考えたりすることが行われている。現行の学習指導要領保健体育編では、各領域の内容を指導する際に、コミュニケーション能力や論理的な思考の育成を促すための言語活動を積極的に行うことを求めており、このことから思考力の育成のためにグループでの話し合い活動が求められていることが伺える。そこで、本研究においては、ボール運動の授業を実施し、試合に向けてチームで作戦を考える話し合い活動によって、児童の話し合い内容や作戦の変化を分析して実態を把握すること、また今後の体育科での話し合い活動で話し合いを活発に行える手立てを探ることを目的とした。

2. 作戦・戦術について

思考活動を取り入れた体育の授業の中で、作戦を組み込んだ指導も求められており、ゲームではボールを持つときの動きと持たない時の動きを身につけ、作戦を選ぶことも重視されている。後藤ら(2001)は、サッカーを楽しめない原因として、「どこにどう動いたらいいのかわからない」といったボール非保持者の戦術行動の認識不足が背景にあると考えるとしている。つまり、戦術を理解した上で試合を行うことは、試合中の行動を理解して取り組むことができるということである。このことから、ボール運動系の領域から作戦を切り離して授業を行うことは難しいと考えられ、授業中に作戦や戦術に焦点を当て、児童の思考力の向上を目指すことの有効性や必要性があることが伺える。

2. 研究方法

児童の話し合い活動中の内容や作戦、話し合いの形態等を探るために、試合に向けた作戦を考える話し合い活動に焦点を当てたラグビーの授業実践を行った。分析は、ICレコーダーによる録音から逐語記録を作成し、児童の発言内容をカテゴリー分類し、意見・提案のカテゴリーと質問・疑問のカテゴリーに注目してその発言数を見た。意見・提案のカテゴリーは考えを深められる「攻守に関する意見・提案」と「その他の意見」に分類し

た、質問・疑問のカテゴリーは、「考えを深める質問」と「その他の質問」に分類した。また、タブレットで作戦ボードを用意し、それを使って作戦案を考えさせその記録を回収することで作戦案の広がりを見た。

3. 授業実践

前半の授業実践では、技能向上を目指した実践を行った。後半の授業実践では、試合に向けた作戦を考える話し合い活動に焦点を当てた。作戦を立てる時には、「チームで作戦を考えてトライする」とことをめあてとし、教員が戦術を指導することは行わなかった。

4. 結果及び考察

1. 話し合いの分析

意見の中で、「攻守に関する意見・提案」のカテゴリーに分類されたものの総数と「考えを深める質問」の総数が多い班を見てみると、双方の数が多い班が見受けられ、その時の話し合いは、班内で深められる話し合いが行われたことが伺えた。また、各班の話し合いの分析を行うことから、班での話し合いの進め方の形式には3つの形態があることが分かった。1つ目は、進行役の児童を1名立て、話し合いを進めて行く形態である。2つ目は、進行役を立てずに班員が意見を各々のタイミングで自由に述べる形態である。3つ目は、それら2つの融合が他であり、進行をしながらも自由に意見を述べていた。これら3つの形態で比較すると、融合型の話し合いを行っている班が、意見を多く引き出しやすいことが伺えた。また、意見を多く引き出す話題として、試合の振り返りを話題に挙げることが有効であることが伺えた。これは試合の振り返りでは、場面の共有や改善点、改善案等意見を出す項目が多いからだと推察される。

2. タブレットの作戦ボードの分析

提出された作戦案を分析すると、攻撃では主にパス回し作戦、ロングパス作戦、おとり作戦、1人で独走作戦の4種類の作戦案が出ていた。また、指示はしていないが、守備の作戦案を考えた班もあった。守備もいくつかの案が出ており、これらのことから教員が作戦を教えずとも、授業中の思考活動により多くの作戦案が生み出せることが分かった。

5. まとめ

本研究から、体育の授業中に思考活動を行うには、融合型の話し合いが意見を引き出すためには有効であることが分かった。また、教員が児童に対し全員が主体的に考えることを伝える、試合の振り返りから課題を挙げ、その解決策を考えるという話し合いの進め方を指導することも意見を多く引き出すためには有効な手立てであることが伺えた。また、チーム編成を行う際には進行を行える児童に加え、自身の意見を主張できる児童も班の中に入れられれば、効果的な話し合いが可能になると考える。今後も効果的な話し合いの方法を模索していきたい。